

令和 6 年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 外国語学部

フリガナ モリ タクミ
氏 名 森 巧

研究期間 令和 6 年度

研究課題名 ベトナム戦争期における中華民国の対アジア農業技術援助外交

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	森 巧	外国語学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、中華民国政府（以下、中華民国）が、農業技術の提供をアジアにおける中国との外交闘争にいかに関与してきたのか分析するものである。中華民国と中華人民共和国（以下、中国）の農業技術支援競争については、急激に国連加盟国の増えた 1960 年代のアフリカの事例が注目されがちである。だがベトナム戦争期のアジアにおいても、中華民国は、南ベトナムやタイ、フィリピンなど周辺の反共国家に対する農業技術支援を行っていた。本研究では、日本・アメリカから見た場合、被援助国のイメージが付きがちな 1960 年代の台湾が、実際にはアジアの国々に対してドナーの側面も有しており、1960 年代に盛んとなったアジア地域統合の潮流のなか、一定の役割を果たしていたことを解明するものである。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

台湾の中央研究院や国史館に所蔵される外交部檔案などの公文書を精読することで解明していく。さらに FRUS (Foreign Relations of the United States) など刊行されたアメリカの公文書を閲覧し、アメリカ側が台湾の農業技術援助をどのように評価し、その他同盟国への援助を肩代わりさせようとしていたのかを明らかにしていく。申請者の語学力の問題、また史料公開状況の問題のため、ベトナムやタイなど援助を受けた国々の史料を収集・分析することには限界があるものの、現地に駐在した中華民国やアメリカの外交官・経済官僚の日記、回想録などを利用して、関係国の動向についても可能な限り明らかにしていくことを目標とする。

3. 研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

本研究テーマを遂行するためには、台湾において史料調査を行う必要があった。今年度、申請者は令和 7 年 3 月 19 日から 25 日まで台湾に渡航することができたものの、当該期間中に活性化資金を用いた協定校訪問と本調査を並行して実施せざるを得ない状況となった。そのため、予定していたよりもはるかに短い時間しか史料調査に充てることができなくなった。しかしながら、3 月 20 日・21 日に中央研究院近代史研究所檔案館、25 日に国史館總統副總統文物館には史料調査を実施することができた。

このような事態となったのは、活性化資金を利用した台湾訪問の実施可否について、学部内での決定が大幅に遅れたことに起因する。その結果、台湾留学の担当者でもある申請者は、会計年度の締切の関係から、調査と友好訪問を同時に実施せざるを得なかった。本来、両者は別々に行われるべきものであり、会計担当者にも不必要な負担をかけることとなってしまった。この場を借りて、関係各位に深くお詫び申し上げる次第である。今後は、同様の事態が再発しないよう、十分に留意したい。

上述の 3 日間の史料調査を通じて、本研究に関わる中華民国外交部や、農業技術援助計画に関係する經濟部、国際経済合作発展委員会、中国農村復興聯合委員会などの檔案史料を収集することができた。また、調査中に偶然立ち寄った古書店にて、援助計画に関与した人物の回想録などを購入する機会にも恵まれた。調査期間こそ短かったものの、実りある調査となった。

4. キーワード（本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載）

①歴史学	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

学園研の助成を受けた半年の期間に、研究成果を発表することはできなかった。だが、今回収集した史料などをもとに次年度中には具体的な成果物を発表できるよう現在準備を進めている。